

平成 29 年度第 4 回総合教育会議 議事録

1 開催日時

平成 30 年 2 月 21 日（水） 13:30～15:00

2 出席者

(1) 構成員

市 長	園田 裕史
教 育 長	遠藤 雅己
教育委員	永田 政信
教育委員	渡邊 敬
教育委員	佐古 順子
教育委員	村川 一恵
教育委員	嶋崎 真英

(2) 説明者

教 育 政 策 監	丸山 克彦
教 育 次 長	上野 真澄
教育総務課長	三岳 和裕
学校教育課長	江浪 俊彦
学校教育課参事	本多 修司
教育総務課係長	内野 一嗣
こども未来部長	川下 隆治
こども政策課長	大久保 哲郎

(3) 事務局

企画政策部長	山下 健一郎
企画政策課長	浦山 聡
企画政策課係長	松園 洋平
企画政策課職員	宮田 淳仁

3 協議事項

(1) 子どもの貧困対策のアンケートについて

(2) 教職員の働き方改革について

- ・教職員の長時間勤務の解消について
- ・社会体育活動などへの教員の関わり方について
- ・家庭の日（毎月第3日曜日）への取組について

(3) 平成30年度教育に関する方針について

(4) その他

4 経過

企画政策部長 山下 健一郎

皆さん、こんにちは。それでは定刻となりましたので、ただ今から平成 29 年度第 4 回総合教育会議を開催いたします。どうぞよろしく願いいたします。

まず、お手元の資料のご確認をお願いいたします。資料 1 出席者名簿でございます。資料 2 配席図でございます。資料 3 教職員の働き方に関する実施調査項目でございます。資料 4 平成 29 年度長崎県中学校運動部活動に関する調査結果について抜粋でございます。その他、本日急遽配布をさせていただいておりますが、子どもの生活実態調査結果概要とアンケート調査票を追加で机の上に置かせていただいております。不足等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。もし、その説明の時になれば、手を上げていただければと思います。

それでは開会に当たりまして、大村市長園田裕史がご挨拶を申し上げます。

大村市長 園田 裕史

皆さん、こんにちは。本日は今年度の第 4 回の総合教育会議に皆様大変お忙しい中にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、私からも、先般、総合教育会議のメンバーさんとの意見交換会ということで、遠藤教育長はじめ教育委員の皆様にご大変お忙しい中お時間を頂戴しましてありがとうございます。さて、私自身の個人的なお話にもなりますが、任期をあと半分切っておりまして 2 年が終了して後 1 年半強になっております。この間、教育委員の皆様からいろんな形でご提言をいただき、この中でいろんな形でアドバイスをいただき施策に反映をしてくれております。その内容を更にこの平成 30 年度は思いっきり盛り込んで、昨日記者発表させていただいております。今日の長崎新聞の見出しにも「子育て支援と教育に重点」という形で、大きく

見出しを立てていただきました。しっかりと施策を多くの方々に知っていただいて、また大村市はもちろんですけど外からもたくさんいろんな方々が大村市に入って来ていただけるような教育環境を整備してまいりたいと思っております。後ほど平成 30 年度の教育に関する方針ということで少し述べさせていただきますが、先ず以てこれまで皆さん方からいただいた内容を 30 年度にも反映させることができましたことに心から感謝を申し上げます。本日も前回からの引き続きの分もございしますが、有意義な意見交換会になればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございます。

企画政策部長 山下 健一郎

はい。ありがとうございます。それでは次第 3 協議の方に移ります。ここからの進行は、大村市総合教育会議運営要領に従い市長が行います。

市長お願いいたします。

大村市長 園田 裕史

はい、それでは次第 3 協議に移ります。まず協議事項の 1「子どもの貧困対策のアンケートについて」でございます。事務局から説明をお願いいたします。

こども未来部長 川下 隆治

皆さん、こんにちは。こども未来部の川下でございます。協議事項といたしまして、子どもの貧困対策のアンケートという題目を付けております。今机の方にお配りしておりますのは、子どもの生活実態調査ということでタイトルは付けさせていただきます。各アンケートにおきましては貧困というのを前面に出すのはどうかということがございまして、あくまで暮らしぶりはどうでしょうかというような一応アンケートということで今回実施をいたしております。ただ現在ですね、委託業者の方と数値の確認、表現等の調整を行っております。基本は本年 3 月までに作るという格好でございます。現在作成中でございますので、現在こういった回収結果が出ましたよと、そして

ご参考までにアンケートの調査の方を行わせていただくということで、ご報告というような結果内容でございます。まず見ていただきまして、調査の目的でございます。実際それぞれ子育てのご家庭そしてその子ども本人のですね、今の暮らしの動向についてきちんと実態を把握しましょうということを目的としております。調査の対象は市内の市立、まあ市立しかございませんが小5・中2のお子さん、そしてその保護者という格好で実施をいたしております。そして教育委員会、学校現場のご協力をいただきまして学校の方でお子さんにつきましては実施・回収していただいております。そして保護者につきましては、お子さんの方に持って帰っていただいて学校の方で回収し、最終的にはこども未来部の方に集めさせていただいております。時期は10月に実施をいたしました。調査項目につきましては住んでるエリアであったり、ご家族構成、保護者のお仕事と年収等も入っていたりいたします。そして子どもの日頃の暮らしぶり、いろんな所持品であったり、今後どのような先々進学についてどのような意識を持っているかというような項目についてアンケートを実施いたしております。

まずは5番の配布回収状況ですけれども、小5配布数で書いてございます。親子セットになりますので配布組数ということでご理解いただければと思いますが、小5で992、中2で968、1,960組に対しまして子どもさんのみの回収している部分が1,892約97パーセント。そして保護者からの回答部分が1,697約87パーセントということで若干ちょっと保護者の方が回答が少なくなっております。この有効回収数と申しますのは、このお子さんと保護者きちんと紐付きでご家庭ということで判別できたのが86.1パーセント、1,687有効的なデータがあるということでこれを基にですね、現在データ集計・分析の方を実施しているということでございます。調査結果につきましてはですね、次回か年度始まってからになると思いますけれども、

そこにまたご報告という格好になるかと思えます。一応、調査票につきましては参考ということで、それぞれ小学校5年生、そしてその保護者、中学2年生本人とその保護者それぞれのですねアンケートを参考までに付けております。概ね子どもの意見はだいたい共通してるんですけども、若干、中学生のみ中学生の年齢に合った所持品であったり進路についての記載となっております。保護者もだいたい同様の中身ということでございます。概略以上でございます。よろしく願いいたします。

大村市長 園田 裕史

はい。ありがとうございます。小学校5年生と中学校2年生にした背景を詳しくご説明をお願いします。

こども未来部長 川下 隆治

はい。一つはこの年齢ちょうど進学、小5の場合は中学に上がる1年前ということでその準備も含めて。そして中学2年になりますと高校進学の1年前ということで、そういった進学も視野に入ってきてるだろうということで、その1年前に一応設定をさせていただいております。だいたい全国様々な先行事例もこの年齢層で取られてるということで共通のデータで比較ができるだろうということで、同様の設定にさせていただいたところでございます。

大村市長 園田 裕史

はい。ありがとうございます。子どもの貧困対策という形でこの実態調査をさせていただいております。集計結果レポートができるのはもうちょっと時間がかかるんですけども、ちょっと背景を申し上げますと、平成28年の6月頃に子どもの貧困対策首長連合というのを全国組織で作りました。私も発起人になりまして、発起人が全国の首長で5人おります。武雄市、我々大村市、大阪の八尾市、それと大阪の箕面市、それと茨城の古河市ということで5つの自治体の首長が発起人になって、お声をおかけして今全部で170を超える自治

体の首長が参加をしてくれているというところ
です。要はそれぞれの首長が全国で繋がって各地域
で貧困対策に関することを一生懸命やろうという
ことだったり、一つの組織体を持って内閣府だっ
たり文部科学省だったり厚労省だったり関係機関
に対する提言をしていこうということで、昨年末
に武雄市が代表をやっているんですけど内閣府にそ
の提言書を提出をしているところです。こういっ
た動きが一つあっていたってことが背景にも
あります。もう一つは同じく 28 年の 8 月頃から、
これはクロズドなんですけど一般には公開せず
場所も公開せず時間も公開せず、いわゆる生活保
護世帯を対象とした学習支援事業をこれは市の福
祉保健部の方で対応してます。今も継続的に 1 回
につき 4 人ぐらい週に 2 回の開催で子ども達が来
てくれます。いい形で今も継続することができ
ています。こういったことをくり返しやってきた
んですが、一番重要なのが貧困の定義が、じゃあ
今、貧乏だから貧困なのかといったらそうじゃな
いし、物は溢れてるけど心の貧困もあったりとか、
貧困の定義がはっきりしないと細かい対応策を打
てないので、まずは実態調査が先だということで
実態調査をしてしっかりと背景に基づく施策
を打ち出していこうということで、取り組んでい
るところでございます。なので、またこのレポー
トができたらそれに対していろんな形でご意見を
いただいて、施策に反映をさせてまいりたいとい
うふうに考えております。

今のこの資料等について、皆さんからご意見等
ございませんでしょうか。まだ結果が出てないの
で何も言いようがないというところがあるのかな
と思っておりますが、まずこのレポートができる
と比較的いろんなことが見えてくるのかなと思っ
ております。

あと一つ情報提供までになるんですが、この貧
困対策にも絡む一つの動きとして報道もされてお
りましたが、日本財団が家でもない学校でもない
第 3 の居場所作りというのをプロジェクトとして

立ち上げてまして、要は全国に 100 か所、そうい
った心の問題だったり家庭の問題だったり貧困だ
ったり、いろんなことを抱える子ども達の居場所
作り、そういったことに特化した学童みたいな施
設を全国に 100 か所作ろうと。イニシャルコスト
が財団が応援するよと。3 年間の運営費を財団が
応援するよと。4 年以降は自分達で頑張っ
ていうプロジェクトなんですけど、これに大村市
も名乗りを上げてまして報道もされています。
でき上がると九州で初めてになるのかな、宮崎が先
ですね。県内でももちろんないですし全国に先駆け
てできることになります。こういった動きも日本
財団と連携をしながら進めていきたいと思っ
ております。また、進捗については 30 年度にはいろ
んな形で見えてくるのかなと思いますので、またご
報告をさせていただきたいと思っております。非
常に注目されるような施設運営になると思いま
すので、その点についても進捗をまたご報告をさ
せていただきたいと思っております。

それでは次にですね、協議事項の 2「教職員の
働き方改革について」お願いいたします。今回は
3 点取り上げておりまして、1 つが教職員の長時間
勤務の解消について。2 つ目が社会体育活動への
教員の関わり方について。3 つ目が家庭の日（第
3 日曜日）の取組について 3 点取り上げており
ます。これらについて、まず事務局から説明を
お願いいたします。

学校教育課長 江浪 俊彦

失礼いたします。学校教育課でございます。ま
ず資料の 3 をご覧下さい。今現在、教職員の働き
方改革というのは大変話題になっているところ
です。そこで教育委員会といたしましては、大村市
の教職員の实態調査をすることで、どんなところ
に負担感だとか多忙感を感じているのかというよ
うな調査をして、実態を知る必要があるだろうと
いうことで、こういった教職員の働き方に関する
実態調査を行います。本日お示しをしております
ものは、その項目になります。やや内容を踏み込

んだところまで聞いております。大きく二つに分けておまして「あなたが勤務する学校及びあなたが働くための家庭環境についてお聞きします」ということで一つ目、二つ目が「あなたの業務と職場環境についてお聞きします」ということになります。1 番目のところでは、そこに示してありますように、性別から年齢といったことで、まずは基礎的な資料。そして実際に自分の家庭環境ということで起床時刻から通勤時間・それから同居家族のこと・あるいは子育てについて。この地域行事というのは自分が住んでいる地域行事への参加の在り方であるとか、そういったところを聞いております。それから 2 番目の業務と職場環境についてというところでは、やはり休憩時間のことであるとか、あるいは休日の業務量のことであるとか。そして部活動あるいは社会体育指導の負担感のこと。それから児童・生徒あるいは保護者対応のこと。そういった項目で質問項目を考えております。ここには入っておりませんが、一番最後に働き方改革に繋がる教職員からの提言というのも記述式でもらうようにしております。こういったことでまずは実態を把握したいというふうに考えているところでございます。

大村市長 園田 裕史

これはすみません、いつから取っていつ回収していつぐらいに結果が出るのでしょうか。

学校教育課長 江浪 俊彦

はい。今週末もしくは来週の初めに調査を各学校にこの調査用紙を配布いたしまして、年度内 3 月までに回収をいたしまして分析を行うと。そしてそれに向けての対応ということは新年度になってからというふうに考えております。

大村市長 園田 裕史

ちなみに県の教育委員会とか、こういうことしたりしてるんですか。

学校教育課長 江浪 俊彦

県教育委員会は行っておりませんが、文部科学省においては似たような調査をモデル校で行って

おります。

大村市長 園田 裕史

それは独自に市でやるということですか。

学校教育課長 江浪 俊彦

内容は文科省のものを参考にさせていただいた部分もありますが、独自の部分というのもあります。

大村市長 園田 裕史

これ県内の市町でやったりしてるんですか。というのは先生方って異動もあったりするでしょうし、市町で差が出たりするとなると項目ってある程度統一してた方がいいのかなと思ったりもちょっと。それはいいんですか。

学校教育課長 江浪 俊彦

大村市の教職員の实態を知りたいということで、こういうパターンを行いました。

大村市長 園田 裕史

他市と比べるものじゃなくて。はい。わかりました。1 個 1 個言った方がいいんですか。全部説明するんじゃないくて。

企画政策部長 山下 健一郎

全部説明してもらっていいです。

大村市長 園田 裕史

はい。すみません。

教育長 遠藤 雅己

ちょっと今のじゃボリュームがわからないですね。出せないですかね。

学校教育課長 江浪 俊彦

実際はでき上がってはいるんですけども、実はこの後の定例教育委員会の中で示さないことには出せないのかなと思って。

教育長 遠藤 雅己

ボリュームだけ言って下さい。どのくらいの分量になってるか。

学校教育課長 江浪 俊彦

全部で 52 項目になります。そして裏表印刷にしまして 8 ページというような内容で、けっこう働き方改革にしてはちょっと忙しいんじゃないかと

言われるような調査なんですけども。回収もその後の集計も、こちら教育委員会の方ですべて行うというふうにしております。

教育長 遠藤 雅己

ちょっと補足しますけど、学校の時間だけを見ても仕方ないだろうと。だから1日の朝から起きての時系列に並べてますので、記入はしやすいと思います。突拍子もないものが出てくるものではないので。その中から負担軽減とか働き方改革を大村市独自でやっていこうじゃないかということでございます。また教育委員の先生方には後でお示ししますが、市長の方にも資料をこの後に届けたいと思います。よろしく願いいたします。

学校教育課長 江浪 俊彦

それでは続きまして、社会体育活動などへの興味と関わり方ということなんですけど、資料の4になります。これは昨年11月から12月にかけて県内の全ての中学校の運動部活の部に調査をかけたものです。県教委が行ったものです。県内の全中学校174校で1,495の運動部ということになります。文化部は入っておりません。運動部のみです。休養日の設定をどのように行っているかという調査でございました。県としましては1週間に2日以上休養日を設定しなさいというような通知を出しているわけなんですけども、その実態調査でございます。大村市に関しましては7.1パーセントが1週間に2日以上休養日を取っていると。それから後は見ていただければと思いますが、ほぼ1週間に1日というのが83.5パーセントというのが一番多くございました。設定していないという部もありまして、そこは少し課題かなというふうに思っております。2枚目の方は今度は家庭の日。毎月第3日曜日を家庭の日と設定をいたしております、この家庭の日も休養日を設定をすることというふうにしております。しかし、なかなか第3日曜日に試合が組まれているとかそういうこともあって、うまく休みが取れていないというのものもあるんですけども、大村市としまして

は練習は休みとして大会も不参加というのが16.7パーセント。大会は参加するけども練習は休むというのが66.7パーセント。練習も実施し大会も参加しているというのが16.7パーセントという状況でございました。県下においては総計の欄に書いてあるところでございます。この家庭の日につきましては、もうご存知かと思えますけど、平成13年度から始まりましたココロねっこ運動の取組の一つとして、家庭の日を設定をいたしております。県民は毎月第3日曜日を標準として毎月1回家庭の日を定め、家族の絆を深めるように努めます。県は市町などと連携して家庭の日の主旨について広報と啓発を行います。こういったことで平成13年度からスタートをしているところです。ところが、こういった部活動等でうまくいってないという状況があって、今後のこの部活動につきましては平成31年度中に1週間に2日以上休養日と家庭の日は休養日とすると、県が一斉に目標を掲げて全県下に通知を出すというふう聞いております。やはりスポーツ庁から出た分がかなり大きな影響を与えているのかなと思っております。以上でございます。

大村市長 園田 裕史

はい。ありがとうございます。それでは、ちょっといくつか分けて確認をしていった方がいいかなと思われましたので。

まず資料の3教職員の長時間勤務の解消について、このアンケートについて今からこの後の教育委員会でも揉まれるということだったので、そちらで揉まれたらいいですね。結局ですね。私も後でちょっと確認したいと思いますが、ぜひまた、この後の教育委員会でも揉んでいただければと思っております。ただ一つ、これをしっかり活かして32年度の3学期制への移行というものに進めてまいりたいと思っているのと、私首長としての皆様方へのお願いとご協力という意味では、この間も私「マチノコトーク」って言って、市内の中学校区で回ってるんですよ。多くは保護者さんを

対象でなかなか私の人気がなくてですね 10 人ぐらいしか人が来られないですが、非常に有意義なざっくばらんとした会で、教職員の先生も砕けていろいろ実際のぶっちゃけた話をして下さっているので、いい意見をいただいています。その中でもあるんですけど、実際学校の先生方からは 32 年度から移行するから、もう実質は 31 年度中にいろんなことを決めなければいけませんねっていうのを、すごい積極的な意見を教職員の現場の先生からいただいています。30 年度に一応そこを揉んで、31 年度にまたいろんな形で改善策のものを打ち出すと。そこにお金がかかることもあるかもしれないし、打ち出して 32 年度から 3 学期に移行というふうにしないといけないので 30 年度は非常に重要ですねって意見もいただいています。なのでこのアンケート調査の実施においてですね、しっかり見えてきたものを 30 年度しっかり揉まないといけないというふうに思っているところなので、ぜひ委員の皆さんからもいろんな形で、このアンケートの内容に関することも、できたレポートに対してもですねご意見を頂戴できればと思っています。

では、この資料の 4 の社会体育活動への教員の関わり方、家庭の日への取組の数値的なアンケート調査について皆様からご意見・ご質問等ございませんでしょうか。嶋崎委員お願いします。

教育委員 嶋崎 真英

働き方に関する実態調査をちょっと最初になりますが、私見を申し上げたいと思いますけれども。やはりアンケートで問うたことは毎年継続して働き方の調査をすべきだなということですね。他と比較できるような項目があって。他と比較できるような仕組みであるべきじゃないかなと思うんですね。これはどちらかというと、働き方ということに集中しているようなんですけれども、働きがいとかやりがいとか、あるいは自分の仕事の内容・ボリュームに対して報酬が適当なのかどうかとか、あるいは同僚との関係がうまくいっている

のかとか、上司それから校長・教頭に対する直接的な評価があつていいと思うんですよね。そういうのを織り込んで、それを継続的に年に 1 回しっかりやっていくと、他と比較できるようにしておくと大村市の教職員さん達のモチベーションというのが把握できるんじゃないかなというふうに思います。だからこれを見ると先生達の仕事は非常に厳しいんだということで、それを調査するような内容になっているような気がいたします。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。いかがですか。

学校教育課長 江浪 俊彦

はい。ありがとうございます。調査項目の中に「やりがいとか満足感を得られるのはどんな時ですか」というようなところは、一つ盛り込んでおります。それから確かに他と比較できるようなというのは、本当に大事だなと思ったところなんですけども。

教育委員 嶋崎 真英

会社でやってるんですよ実は毎年。毎年やってましてね。経営陣に対しての評価はとか、けっこう厳しい評価も時にあるんですけども。だから年代別に分けて分析をしたり、調査の内容はだいたい同じような内容になってまして、それで分析までしてコンサルがしてくれるんですよ。しっかりしたプレゼンを毎年してもらってるんですけど。それで職場環境が良くなってるかどうかって評価をしてるんですけど、そういう手法があると思います。私の方は生産性本部から紹介してもらって、違うか、どこだったかなみずほ総研だったかな、どこかとにかくあると思うんですけど、何かそういう内容を織り込んだ方が、ただただ仕事は皆さん大変ですかっていう問いよりは、仕事に対する働きがい、生きがいっていうのが一番最初に来るべきものじゃないかなというふうに思うんですよね。

大村市長 園田 裕史

そういった内容をぜひ盛り込んでいただきたい。

それと先程、嶋崎委員からあった上司に対する評価というアンケートなので良い悪いは別として、上司からのストレスだとかそういったハラスメントみたいな部分というのは入ってるんですかね。

学校教育課長 江浪 俊彦

ハラスメントについては入っておりません。

大村市長 園田 裕史

それはそれで別ですね。委員の皆さんからないでしょうか。資料3についても4についても、どういうところですか。

教育委員 村川 一恵

働き方改革のアンケートについてなんですが、先程、教育委員会の方で集計をされると言われてたんですけど、大変膨大な量の作業になるんじゃないかと思ってるんですけども、そこも含めてコストもかかってきたりするんでしょうね。時間がですね。そこで出た結果とかについては、なかなか教育委員会から直接学校長に伝えることも必要だと思うんですけど、個人について声かけをすとかいうのは、先生同士では難しいこととか言いづらいののではないかなと。そういうことも出てくるんじゃないかなと思ひまして。例えば、そこに第三者的なメンタルケアの方が入ったりとか、そういうことも踏まえてのアンケート調査の対応ができるようであれば、先生方も答えやすくなるだろうし、アンケートの調査結果を反映するのも先生でも比較をしていくのもやりやすいんじゃないかなと、第三者を入れた方がと思ったりもするんですけど。そういったところは今のところどうなっているのかと思ひまして。

学校教育課長 江浪 俊彦

はい。集計等についてはこちらの方で行う予定としております。ただ個人についての部分ですけど悩みを抱えるとか、そういう部分かなと思うんですけど。毎月ですね月別の勤務状況調査というのを行っておひまして、その中で80時間から100時間超えたものというのは実態は把握をしているところであって、そういった職員につきましては

もちろん校長の方から声かけをし、そして本人が希望するのであるならば、産業医なりあるいは校医の方でケアをしてもらうというようなシステムでその辺は拾うようにしているというふうしております。

大村市長 園田 裕史

先程あの嶋崎委員から出た他市町との比較については、どのように考えていきましようかね。そういうのを今後考えていくということでもいいと思うんですが、そういう形でデータベースが構築されてたらいと思うんですけど、県内でやろうとしているところってあるんですか。

学校教育課長 江浪 俊彦

今のところ他市町での実施というのは聞いてないんです。ただ文科省でした分が、だいたい似ているようなところもありますので、その比較はできるかと思ひます。

大村市長 園田 裕史

どうぞ政策監。

教育政策監 丸山 克彦

長崎県内でやっているところは聞いてはないんですけども、非常にこの働き方改革の面で進んでいる自治体というのが、横浜市なんか非常に進んでいるという状況があります。横浜市は独自にこういった調査をしてですね、今、文科省でやっている外国人材だとかを活用するといったことを積極的にやっているという状況があって、まずはその前段として実態を調査するという事です。毎月、教職員の超過勤務の状況というのは教育委員会に報告が上がってくるわけですけども、各先生は毎朝出勤時間をパソコンに入れて、退勤の時には帰る時間というのを、それが自動的に集計されて出てくるというシステムにはなっているんですけども。その結果を文科省の勤務実態調査と比べると、例えば、超勤の過労死ラインの80時間超えは、国の調査では一般教員で約3割ぐらいいるのに対して、本市は3パーセントぐらいだと思いますね、非常に低く出てきてしまっているという

のがありますので、それはまずそこが本当なのかというところが疑問点としてありますので、まずは実態を調査させていただく。それから遠藤教育長が言ったように朝から夕方までの流れとかですね、あるいは単に超勤の時間だけじゃなくて多忙感というのは何なのかというところまで踏み込んだ形で調査をさせていただいて、これを今後の施策に結び付けていきたいというふうに考えています。横浜市のように財政が富裕団体であれば、いろんなことができると思うんですが、文科省で進めている様々な事業もありますけれども、そのうちのどれが大村市にフィットするのかというところについては、やっぱり調査をしてみないとわからないところもあるので、まずはそこをやってみたいなと思います。

大村市長 園田 裕史

さっき村川委員からも出たように、これは集計するのは教育委員会がということなので、教育委員会が働き方改革を指摘されないようにしないといけないかなとは思いますが、それはできる限りやらないといけないことですからね、お願いして。私としては県内他がやってないんだったら、ぜひうちに他が合わせてくれるような形になると嶋崎委員が言われたような差を比較できるようなことになるわけでしょうから、そういった意味では最初にやるということで、ぜひ他の自治体で開始する時にこれをモデルにされるような形になればいいのかなと思うので、そういうつもりだと思うんですけど。そこら辺はぜひ最初にやるということで網羅した内容になればいいなと思ってます。

教育委員 嶋崎 真英

メガバンクの総研であったり、あるいはリクルートとか、ひょっとしたら教職についてもそういうアドバイザーとかコンサルをやっているところもあるかもしれないと思うんですけどね。それも調べられてみて、今、市長がおっしゃったように大村市が長崎県のモデルになってアンケートの項目

がほしい同じようになれば相互の比較もできるし、継続してやれば年度でどういうふうに改善しているのかというようなことも判断できるんじゃないかと思うんです。ちょっと民間ベースかもしれないですけど、調べていただければと思います。

大村市長 園田 裕史

ぜひモデルにさせていただきたいなと思います。永田委員、現場にいらっしゃったことからして、何かご意見ございませんか。現場を振り返っていただいた時に。

教育委員 永田 政信

もう退職してから8年になるんですけど、その当時のことと今上がってきたことがほしい同じで、やはり同じようなことがずっと繋がっていつてんだなというふうなことを感じますね。だから何らかのことをやっていかなければいけないのかなと、これを見ながら思ったところです。たぶん、これを実際に調査をした結果が上がってきた時には、やはり相当なものが上がってくるんじゃないだろうかというふうに思うんですけどもね。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。私もよく一般的に言われてることだと思うんですけど、教頭先生の部分というのが、どういうふうに上がってくるのか非常に注目したいなと思ってますし、教頭先生の負担というのはものすごく他の先生方にも増してというところもあるのかなと思ったりしてますので、しっかり注視していきたいと思います。この資料4についても、今「マチノコトーク」っていうので回ってたら、大村市内の中学生、特に中学生ですけど桜が原中学校の出身の生徒さんに代表されるように、ものすごくスポーツ・文化の成績が今優秀で、ありがたいなと思ってます。「マチノコトーク」の中でちょうどこういう話になって、部活に対する保護者側の意見をけっこう述べられました。そこには校長先生方もいらっしゃって、全然対立することもなく、保護者としては勝利至上主義になっている部分があるんじゃないかって

おっしゃった保護者もいれば、逆に某中学校ですごく活躍してる吹奏楽部の保護者さんとかは「自分の娘は吹奏楽で夜も遅いと。勉強する時間も遅いけど、それが自分の頑張りだということで、すごく生き生きとしていると。別に部活が休みになったからといって休みの日に早く勉強をしているわけじゃないと。どうせ勉強はしてないというようなことも含めてですね、それをわざわざ週休2日にしないといけないということで奪うというのはいかがなものか」というようなことを、おっしゃった保護者もいました。先生方も非常に微妙だなと思っていて校長先生方からあったのも、明快にこうしてああしてって言えないって形でした。バランスなんだろうなというふうに言われていて、双方がそれをしっかり共有して目標に取り組むというのはいいだろうし、それがずれが生じていてやらされ感だったり、逆に言うともっと生徒達はやりたいのに先生がまあまあいいからという話になっていたりとか、そうなるのが一番問題であって、一つ一つ確認をしながらやっていくと「杓子定規に週休2日とかにしないでいいんじゃないですか」というのが保護者とか学校の先生方からあったようには感じました。個人的なことで大変恐縮なんですけど、佐古委員の娘さんとか大活躍されてるじゃないですか。それはもう練習されてたと思うんですよね、休みもないように。そういったことを保護者の目で見えてきて感じられることはありますか。休めってなるということですよ。

教育委員 佐古 順子

子ども達と同級生の子どもさん達を見ますと、小学3年生くらいから社会体育クラブ活動を始められ、中学校に進学されると更にクラブ活動日が増え、土日も練習試合など頑張っているらしいです。指導者や保護者の皆さんも多忙の中頑張っているらしいです。市長さんがバランスっておっしゃったように、強いチームを作りたいという保護者と、健康増進のためにちょっと関わりたい

なという私どもの考えで少しずれはあったんですけども、その中で子ども達は居場所っていうのをすごく大切にしていました。市長さんからお話がありましたように、運動クラブも文化クラブも高度な技術習得のために毎日の練習を望まれています。そのお子さん達も小さい頃からずっと積み重ねてこられて、家族も先生方も社会体育の指導者の人達も皆さんで築き上げられたものです。週2日とか週3日とか休みをとるということを強制的にすると、たぶん強いチームとかクラブチームなんかにいける方も出てくるんじゃないかと。

大村市長 園田 裕史

そうですね。

教育委員 佐古 順子

なんでも四角四面に決めるというのは難しいかなと思います。うちの子は特別に進路を決めて目標を持ってクラブ活動をしているお子さんと異なり、健康増進や教養の為に参加しているタイプでした。土曜日は他の習い事にあてていました。スイミング、バスケットボール、バレエ、ピアノ、声楽などを経験し、最終的にバレエを選びました。バレエ学科は音楽大学にあるので声楽の必要性を感じ、中学生から始めました。目標を見つけるために、音楽大学や体育大学の舞踏専攻の講習会も受講したりしました。大村市民ミュージカルにも参加し、表舞台だけでなく、舞台裏を支えてくださる方々を知ることができましたし、色々な経験をさせていただきました。ちょっと話が飛びましたけど、難しいですね。ブラスバンドの話も出ましたけども、やはり毎日毎日少しずつ続けて練習するっていうことが高度な技術習得のためには必要だと思います。先程も話がありましたけども、やはり家で練習するよりもそちらで皆さんと一緒に同じ時間を作って練習をした方が。やはり居場所も大事ですね。そんな感じます。週休2日については、話し合いが必要だと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。昨日も「マチノコトー

ーク」で言われた保護者の方で、コーチをされている方がいたりして、そしたらやっぱり一生懸命したいから自分も負担にならないんだと。こういう文科省又は県も2日休めとなってるけど、休まなくていいと言われたり。その方が言われたのが、たぶん休めとなったら学校の部活動ということで19時までには体育館でやると。その後、極端な話シーハットを19時半から取って19時半から21時半までするところが出てきますよって。学校の部活は19時で終わってるからいろいろ言うなど。それ以外は社会体育じゃないけど個人でやっているっていう形でみんな行ってるみたいな話になりかねないですよ。そういうことを言われたりもしました。教育長も柔道の指導をされてたのでよく話もしますし、非常にこの問題を今後教育委員会でも揉んでいかれると思うんですけど、私としては総合教育会議なので今後揉まれていく時に県のそういった統一的な方針に対して市としてこう考えるというものを提言というかお伝えをしていただいで、今の大村市の子ども達と学校の先生方の状況に合ったものを、ご提言いただきたいなと思っています。これだけ活躍する子ども達とそこにやりがいを持った先生方のお声を聞かせていただいたりしてるので、あまり統一的にやるっていうことを県から指導されるのはいかがなものかと思ったりしてます。一方でその部分で、実はついて行けなくて落ちていく子ども達もいると思うんですけど、それはまた別にちゃんとフォローしないといけない部分ではないかなと思ったりもするので、それとこの週休2日の議論を一緒にしていくっていうのは、ちょっとどうかかなと思ったりしています。

では時間もありますので、またこれについても働き方改革っていうのは、先般の2学期制から3学期制に移行の中でも留意する点っていうことで上がっておりましたので、今後ぜひ私が今お伝えさせていただいた部分も含めて協議していただければと思っております。

それでは次に、協議事項の3「平成30年度教育に関する方針について」でございます。これについては、私から思いを述べてというふうに言われたんですけど、これ資料は皆さんにはいってないですね。時間が15時までなので思いを述べさせていただきます。また皆さんから次年度30年度に関すること、また31年度に関することも含めてですね、ご意見を頂戴できればと思っております。

まず平成30年度には冒頭にも申しましたが、子育て支援と教育に重点という見出しが立ちましたけども、これまで皆さん方とご議論いただいた豊かな学力と生きる力を育む教育の充実を実現するため、児童・生徒が快適に学べる学習環境を整備するという、この大項目に則って一つが「中学校への普通教室への空調エアコンを設置」をしたいと思います。二つ目が「大村小学校へのエレベーターの設置」です。三つ目が「トイレの洋式化」について、これを洋式化を進めていくということです。これはもう一つあるんですが、もう一つは実際は教育委員会予算ではありませんけども、子どもの医療費の補助を中学校まで拡充をします。それと現物給付方式でなかった未就学児への医療費補助についても現物給付に切り替えます。これがシステム改修も含めて、平成31年度の1月からの実施。未就学児は現物、小中学生については医療費補助という形を31年の1月から実施をするということです。これは総じて私としての思いなんですけど、ありがたいことにこの県内で唯一人口が増えているのは大村市だけです。長崎県の人口の減少率というのは全国でもトップクラスでして、それをダム機能として支えているのは大村市だと思っております。我々はいつも役所で職員に私から話をする時に、自分達は長崎県を支える長崎県をけん引しているトップランナーとしての気概を持とうと。役所もそうだし、企業もそうだし、市民もそうあってほしいというふうに言ってます。企業に関してはそういうことを考えてベンチャースピリッツを持って新規事業に取り組ん

で、新しい収益・経済活性化を図ってほしいと。市民においてはですね、先般投票率がすごく低かったですがいろんな選挙やまちづくりについて積極的に参加をする。選挙にももちろん参加をする。そんな市民性であってほしいということをよく言っています。そんな中で新幹線だったり、今後空港の活性化だったり、来月には木場スマートインターチェンジって、もう一つインターチェンジが開通をして、嶋崎委員も長崎からこちらに来やすくなれるんじゃないかと思っております。あり得ないぐらい交通アクセスが整うんです。全国にも稀なぐらい。そういった新幹線の開業に向けていろいろハードを進めていく中で、同時にこの教育行政と子育て支援策を前に進めていって、県内他市からも県外からも大村市で子どもを育てたいというふうにしたいという強い思いでやるのは今だと思って、いろんな形で大きな方針を打ち出しております。もちろん子ども達のために子育て支援を充実するためにということが一番ですけども、その先には今後の大村市の様々な発展においてそれと相乗効果を持ってさらに大村市の人口を伸ばし続けていきたいと。たくさん子ども達の中で子どもが育まれると。若年世代が多く活き活きとしたまちづくりを進めていきたいということで、子育て支援・教育というところに力を入れております。

まず中学校の普通教室のエアコンについてですが、まずはこの3月の議会の時に補正予算を組んで、細かく言うとちょっとわかりにくいので、要は31年の夏にエアコンが使えるようにしたいと思って、急いで進めていこうと思っております。とにかく最短・最速でつくようにしたいと思っております。それと同時に今後3学期制に移行をしていくということの中での議論でも揉んでいただきたいなど首長として思っているのは、エアコンがついた後に夏休みを短縮することができないかなと思っています。今、学校のカリキュラムがすごく窮屈で、学校の先生方の負担というのが先程のテー

マにもあったようなところで現状があります。カリキュラムを確保していくためには夏休みを短縮して、そこに時間を確保する。エアコンがつけば夏休みを短縮することが可能である。今、共働き世帯がすごく多いので、実は保護者の話を聞くと夏休みに子どもをこれは小学校ですけどね、学童に預けるがために実は学童を利用しない4月・5月・6月・7月もお金を払われてるんです。学童に。夏休みだけ使うからというだけでは学童に入れてくれないから、使わない期間も4月に登録をして、4・5・6・7ってお金を払ってる。それで実際使うのは夏休みだけっていう状況があるんです。だからこれだけ共働き世帯が多いんだったら、夏休みが長いっていうのも、実は保護者のけっこうな負担になっていたりしてるというのが保護者の声でもありました。そういったことも含めて、夏休みを短縮することができれば先生方の負担、または余裕を持ったカリキュラムの編成ができるっていうことが一つ。それとICTも含めていろんな教育の質を向上させるために取組を進めています。ただ私も小中学校を経験して、特に中学校の時は自分なりに一生懸命に勉強をしました。その時に自分として思うのは勉強の中身とか質もやり方もそうだけど、やっぱり量はあると思うんです。やったらやっただけの結果は出るので、やったらやっただけということを考えると、やっぱりやるっていう量を夏休みの期間を活用できないのかなと。学力向上にも繋がらないのかなと思っているところです。これが一つ。小学校のエレベーター、大小のエレベーター設置ですけど、おかげさまで通級が今、大小と竹小と富小。中学校においては玖島中と郡中。非常にこの特別に支援を要するお子様の支援体制というのは進んできたと思っております。この度、肢体不自由児さんのフォローをしていくという意味でも大村小学校にエレベーターを設置したいと思っております。実際、学校に足を運んでみると学校の先生方が車椅子を抱えたり、抱っこして手足が動きにくい子を3階までおんぶ

して連れて行ったり。腰をやっている先生もいらっしやいました。だから、ここで大村小学校のエレベーターを設置をするということをしっかりと打ち出して、大村幼稚園・大村小学校・玖島中学校。ここを特別に支援を要するお子様方の支援拠点なんだと位置づけをして石井筆子さんの銅像に恥じないような、そういった教育施策をこの玖島エリアから進めていきたいと思っています。これは今後こども未来部で大村幼稚園をどうしていくのかって方向を決めていかないといけませんけど、そこにも十分リンクをさせた形で考えていきたいなと思っていますところ。これについても、さっきの「マチノコトーク」っていう、保護者が来られる会にわざわざ障害児をお持ちのお母様が来られて、一言だけ教育長・教育委員会の皆さんにお礼を言いたくて来ましたって言って、「エレベーターを設置していただいて、ありがとうございます。それだけ言いに来ました」って言われる方もいらっしやいました。石井筆子さんを輩出した大村市だからこそ、こういったことも力を入れていきたいと思っていますところ。

ただ課題というか設置は設置でいいんですけど、今もそうだと思うんですけど、大小だとかいう環境が整ってるので大小に行きませんかということ。これを他の小学校区にいる障害児さんにも、今後お声をかけていくということになると思うんですけど、やっぱり自分が生まれ育った地域の学校に行きたいって思われる親御さんもいらっしやるんですね。でも、子どものことを考えたり環境が整っているっていうことを考えたりした時に、そういった親御さんにもぜひ大小に行きたいと思っていただけるようにはしていかないといけないと思いますので、その分はぜひエレベーター設置だけではなくて、ぜひソフト面でも特化したような形で大村小学校エリアを拠点にしたいなと思っています。

それとトイレの洋式化についてですが、これも私も委員の皆さんから怒られるかもしれませんが、

和式でもできた方がいいんじゃないのかなと思っていて、洋式化にしないといけないのかなと実は正直思っておりました。ところが役所内で協議をした時に、「和式でもできた方がいいと市長は言われますけど、和式でもできた方がいいという環境がもう日本にはあまりないですよ。ないようになりますよ。というか、和式トイレ自体が、もうあまりないですからね」と。要は、家もそうじゃないということですね。確かにそう言われればそうだなと考えました。それと、特に女の子・女子児童・女子生徒のことを考えたりすると、やっぱりいろんな形で使い勝手が悪い和式トイレというのはいかがなものかなというのもあって、県の状況・全国の状況を見た時に衛生的なことも健康的なことも配慮して進めていきたいというふうな思いで教育委員会と協議をして、今回予算化をしております。大きくはこの3点を今回は当初予算に計上しますが、くり返しですけど新聞でも大きくその部分をクローズアップしてありますし、医療費の補助と合わせて議会からも非常に関心が高く、今回の議会でも大きく話題になるということだと思います。実は他市町が、けっこういろんな意味で大村市を見ています。次々いろいろやっているなど、よく首長で会合をする時にも言われます。なので、しっかりとお金をかけたものを中身も含めて充実をさせていって、本質的な意味で教育の町というふうに打ち出していきたいと思っておりますので、委員の皆さんにご支援・ご協力をいただければと思っております。

これが私が施政方針の中で教育に関する重要な視点として一つまとめているところでございます。この件に関して、皆さんからご意見・ご質問等はございませんでしょうか。

教育委員 嶋崎 真英

「住みよいまち」なんて人口がどんどん増えるということだと思うんですけど、ただただ大村に住みたいっていう動機が経済的メリットだけで大村を選ばれるというようなことになると、良くな

いなど。以前から時々話題になっているコミュニティの希薄だとか、やはり本当に大村の良さ・文化というのを理解してもらって大村に永住していただきたいなというふうに思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。これも「マチノコトワーク」で出たんですけど、本当に参加していただいているということだから基本的に意識が高い保護者さんだと思うんですけど、保護者から出ました諫早附属中学校に進学してる子が多いと。それに対してどうのこうのっていうことは言われてないんですけど、それも大事だけど学力も大事だけど、自分が保護者として思うのはということと言われたのは「大村市は子ども会の参加率・加入率が低いですよ」って。「だから自分は子ども会をもっともっと活性化したいんだと。そのために地域でいろんな人と関わりがあるような、そういった小中学校の教育環境を整備してほしい」とおっしゃった保護者さんもいて、非常にありがたいし私もまったく同じ思いだなと思っています。その部分について、本当に今回のいろんな方針の中ではハード面が主なので、なかなかお示しをすることができていませんが、しっかりその部分についても地域教育をどうやって活用していくのか進めていきたいと思っています。具体的には子供会の加入を促進していこうという別の協議体を今年度作っています。例えば公民館長さんだったり退職校長会とかもですけども、その地域のPTAもだったような。いろんな団体ですね。公民館・健全協・子ども会はもちろん町内会とか。そういった地域の各種団体の中で子ども会をもっとどうやって入れていったらいいのかということで協議をしているので、子ども会の加入はそうやって進めていって。子ども会の加入率が高くなったからといって地域教育が盛んになるかといったらそうじゃないと思うので、村川委員いらっしゃるんですけど松原が新しい形で子ども会を学校区単位で作ったとか。また4月からは松原が特別転入制度を設

けるので、コミュニティスクールの導入とかそういったこともありますので、そこら辺で地域に根差した教育活動をしっかり推進をしていきたいと思っています。もう一つ思いとして述べさせていただくならば、これも「マチノコトワーク」の時に言ったんですけど、今の保護者さんはすごく教育に対して意識が高いと思うんです。うちの子ども2人いますけど塾には行ってないんですが、小学校1年生から塾に行かせる保護者さんもいらっしゃいます。例えば諫早にやりたいからとか。私はそれはいいと思うんです。この保護者さんって何で諫早にやりたいのかな青雲にやりたいのかなって思った時に、子どももちろん将来は医者になりたいとか、こうなりたいっていうのがあるから勉強したい。保護者もそういうふうに学力をつけて、そういうふうにさせたいと思うから行かせる。いわゆる教育の意識が高い親子だと思うんです。ただ、今からの世の中ってAIだったりIoTだったり人間に取って代えられるようなものっていうのがいろいろ出てきた時に、単純に処理能力とか頭の良さだけでは世の中で活躍できるかっていったらそうとは限らなくて、そういういろんな視点を持った方々が今の世の中でも活躍をしている。だったらそのための力をつけてるのって地域でもっと揉まれた方が、勉強も大事だけどこっちも大事だよっていうことを保護者さんが理解をすれば塾にやろうということと同じように、子ども会に入っておかないとって思ってもらえると思うんです。簡単なことじゃないですけど。だから一番は保護者さんに塾に行かせたいと思わせるように、地域で揉まれた方が活躍できる大人になってくれると思ってくれたりすると、ガラッと変わってくるんじゃないかと思ってるので、そこに対する取組をしていきたいなと思っています。そういった意味では教育委員の皆様にもいろんな立場の中で教育を議論していただいているので、こういった皆さん方のような活躍を多くの親子に知ってもらいたいというふうに思っています。そういった機会

をたくさん作りたいなど。アクティブラーニングということになるのか、そういった機会を作っていくということは、子どもも「あんなりたい」とかなっていくんじゃないかなと思うので、ぜひ教育委員の皆さんにも、そういうご講演を学校とか保護者にもしていただけたらありがたいなと思っています。

皆さんから何かないですか。何でもいいです。30年度はわかったと。31年度はもっとこう考えていってほしいから、30年度に役所でも揉んでくれとかいうことでも構いませんし。ご意見をいただければと思います。何かどうぞ。

教育委員 村川 一恵

先程の市長のお話の中にありました中学校の夏休みの期間の短縮の件なんですけど、私はまだ中学校に子どもが行ってませんので実態がよくわからず、先生達の働き方も勉強不足なんですけど、おそらく中学校は先生方というのは夏休みに年休を取られたりとか学習の機会に充てられたりとか、そういうふうを活用されてるんじゃないかなと。先生方は地域に行って活動されたりとか、そういうことも大切なことになってきてるのではないかと思います。そういう余裕があるのが夏休みなんじゃないかなと思ったりもします。なので今度の働き方改革のアンケートの中で、取り組みができるものなのか、逆に働き方改革を先生方を逆行させてしまうことになりかねないことなので、本当に慎重にですね。ただ夏休みの先生方の働く環境もすごく良くなるし、子ども達も教育長も言われたように適温適湿だったら学習能力も上がるように、どんどん成績も伸びていくかもしれないからですね、そういうのを見ながら検討しながらいいのではないかなと思ったりします。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。ちなみに昨日は「マチノコトーク」で保護者さんから「エアコンを何でつけるんだ」って怒られて。お父様だったんですけど、「夏は暑い、冬は寒い。それだけ。それを

学べばいい。エアコンをつけてまでわざわざ勉強させなくていいでしょう」って言う、全然変な人じゃないんですけど来られました。「ありがとうございます」って言って、その議論は本当にありがたいなって。それは小学校をどうするか議論になっていくのかなって思ったりしています。

教育委員 村川 一恵

もう一点いいですか。諫早の附属中学校にエアコンってあるんですか。

大村市長 園田 裕史

県立だからあると思います。

教育委員 村川 一恵

実は私は中学校から私立に通わせてもらったんですけど、親からですね。学校を選んだ基準の中にエアコンが設置してるというのがありました。私が中学校の時から私が通った中学校にはエアコンがあったので、ここに行きたいと思ったと。私がですね。もしかすると環境がいいから諫早にも行きたいと思う子もいるんじゃないかと思ったりしてたので、流出の歯止めになるかもしれないなと思って。

大村市長 園田 裕史

渡邊委員、医学的に今確かに暑すぎるじゃないですか。これたぶん3月の議会でも聞かれると思うんですけど、僕らはもちろん暑すぎる環境を良くしようと思ってエアコンを設置したんですけど、エアコンっていうのが体に対して、今回は中学生なんですけど小・中学生に対するエアコンって、家で使ってると思うんですけど何かありますか。

教育委員 渡邊 敬

確かに何かこう弱くなってるんでしょうね。エアコンに慣れて。我々が子どもの頃は、夏は暑い、冬は寒いのが当たり前というような。忘れてるのかもしれないですけど、もう少し強かったような気はしますし、自分でもすぐ寒さを自宅でも暖房が入ってないところは寒いからエアコンを入れて、暑すぎるくらいあると。夏も寒すぎるくらいエアコンを効かせるというようなのが行われていると

思うんですね。今から中学校に入るとすると、その辺を適正なやり方をやらないといけないと思いますけど。

教育委員 嶋崎 真英

世の中が世界的な異常気象になってると思うんですね。ASEANでもアジアでも記録的な寒波で、それこそ暖房がいらなかったんですよ。北海道の去年、小樽なんか36℃まで上がったと思うんですけど、皆さんクーラーを買い求められるわけなんです。これからそういう異常気象じゃなくて寒暖の差が激しいような気候になっていくのかもしれないし、少なくとも夏休みの期間に冷房を入れるのであれば温度・湿度の変化が10年ぐらいでどうなってるのかとかいうのは科学的な根拠の一つにはなるんじゃないのかなと思います。台湾でとにかく寒かったんですよ。先々週くらい。大寒波、記録的な寒波。

大村市長 園田 裕史

今の嶋崎委員と渡邊委員が言われた部分は議会の質問でもおそらくあると思うので、ちょっと根拠として教育委員会に準備をしてもらった方がいいのかなと思いました。この何十年かの大村の温度の変化ですね。それと世界的なものを含めて背景はやっぱり議会からもあると思いますし、昨年8月4日、私の結婚記念日だったんですけど、その時に大村が日本一だったんです。37.9℃です。ですから、そういったところも含めて根拠をしっかり準備をしておきたいなと思います。時間がありませんけど、最後に永田委員にご意見をいただきたいと思うんですけど、ちょっと私の思いも含めて申しましたけど、夏休みを短縮するっていう考え方っていうのはいかがが思われますか。

教育委員 永田 政信

そうですね、それも可なんでしょうね。私も思います。いろいろ規則の変更とかやっけていかなきゃいけませんけども、やっぱりこんなにも世の中が変わってきたり気候が変わってきたりとかを考えたら、そういうことも発想としてはあっていい

んじゃないかと思います。私は市長さんがどんどん外の目で学校のこと、教育のことを見られて、こうだったらいいね、ああだったらいいねっていうようなことを、どんどん言って下さるんですけども、教員の内なる世界にいたら、そういう発想というのがなかなか出てこないというところはあります。だからそういったことを本当に「ああ、本当よね」って、そういうようなことを教員が同調して、そういうような方向に行くということもあり得るのかなというふうに思うんですよ。市長さん、さっきたくさんのことを言っていただきましたので、私は良い教員が集まると思うんです大村に。やっぱり良い教員が来たら、教育の質は高まっていくと思います。今度の人事異動がもうすぐ始まりますけども、異動に対して自分の働きがいがあるなっていうふうなところを教員は希望しますもんね。だからそういったことに繋がっていければ、教育の質も高まっていくのかなと思ったりもいたしました。

大村市長 園田 裕史

そう言っていただくと心強いですね。ありがとうございます。心強いご意見をいただいたので、ここで終了したいと思います。進行を司会に戻りたいと思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

企画政策部長 山下 健一郎

ありがとうございました。それでは次第の「その他」に移ってまいります。まず来年度の総合教育会議の開催予定ですが、これまでだいたい年4回という形にしておりますけども、4月・7月・10月・1月という形で進めていきたいと考えております。1回目を4月18日水曜日13時30分から15時、本日と同じ時間帯ですが、こちらの場所で行う予定としておりますが、いかがでしょうか？ということで日程スケジュールについては、どうでしょうか。大丈夫ですか？その時に定例教育委員会もある予定になっておりますが、定例教育委員会にくっつけたいというふうに考えておりますの

で、今のところ、そういう形で進めさせていただきたいというふうに考えております。それでは私ども企画の方の考えですけれども、前回ちょっと懇親会をやった時に自由な意見が出てまいりますので、総合教育会議の中では難しいのかもしれませんが、ちょっとそこの冠をはずしたような会議も企画をしてフリートークで話せる場を作りたいなというふうに考えておりますので、そこをまた教育委員会とか調整をしながら設定をしていきたいと考えております。次回の会議の開催テーマにつきましては、後日ご連絡いたしますので、よろしく申し上げます。以上で終了となりますが、委員の方から何かございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これをもちまして第4回総合教育会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。